

令和2年度 教育研究（研修）・教育指導の充実に関する研究グループ

～市教研との連携～ 外国語活動・英語班 活動報告

1 研究内容

D 外国語教育充実を図る研修の推進	担 当
(1) 外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育む市教研と連動した実技研修の充実	田中主幹

2 今年度の活動

(1) 市教研第3回英語班研修

資料1、2

- 1) 参加者：市教研英語班員 参加者10名
- 2) 会 場：名寄南小学校 視聴覚室
- 3) 内 容：パフォーマンステストの評価研修
 - ・名寄南小学校、名寄小学校、中名寄小学校の実践報告
 - ・中学校の今までの実践や、小学校のパフォーマンステストについての改善点について小中の先生を交えた意見交流
- 4) 交流より：
 - ①コミュニケーションを図る目的・場面・状況
 - ・初のパフォーマンステストということもあり、教科書の内容に沿って実施した。今回の反省を生かして、今後のパフォーマンステストを行っていききたい。
 - ・パフォーマンステストの実施の仕方がわかった。
 - ②定着を図る指導
 - ・自分の思いを豊かに表現するためにはある程度のバリエーションが必要になる。その点において、教科書の学習内容を着実に定着させていく必要がある。
 - ・児童の実態を捉え、様々な指導方法を取り入れながら、聞く力や話す力を高めていきたい。
 - ・また、「話したい」「伝いたい」という情意面を育成していく必要がある。こちらについては、指導の改善を図っていききたい。
 - ③評価とフィードバック
 - ・子どもたちの技能について、基準にそって見取ることができた。
 - ・見取った内容を子どもにフィードバックする。児童が自分の課題を見付け、解決を目指して努力していけるようにしていく。
 - ・中学校の先生と連携を取り合い、パフォーマンス評価の制度を高めていけるように取り組んでいく。

5 成果と課題

【成果】

- 今年度から本格実施となった小学校の外国語科の評価について小学校の実践を交流し、中学校の教員から今までの実践を基に助言をもらうことで、評価方法について深めることができた。
- 小学校の実践を交流することで、小中連携の意識を高めることができた。

【課題】

- ▲今年度の取組を土台に、教科の連続性という観点から指導内容や評価方法等、更に小中の連携を深めていく必要がある。